

キュウリ（暖地露地抑制）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作 型	○▲◎											
主な作業	播 接定 収 種 木植 穫 仮 開 植 始											

技 術 体 系

1 作型の特徴

冬季温暖な気象条件を利用し、早期水稻跡作として降霜期まで栽培を行う。

2 適応地域

天草地域等平坦地域

3 栽培条件

(1) 温度

昼適温 25～28℃

夜適温 13～18℃

(2) 光

光飽和点 5～6万ルクス

(3) 土壌条件

排水性が良く、腐植に富み、膨軟な耕土の深い土壌が適する。

4 施設装備

育苗用ハウス

5 経営目標

(1) 収 量 6 t / 10 a

(2) 投下労働時間 1400 時間 / 10 a

(3) 所 得 率 60%

(4) 経営規模 15 a

(家族労働力2人の場合)

栽 培 技 術

1 品種と特性

穂木：「ニューきりしま」

草勢が強く、果形が安定している。果実肥大が早く、初期からの収量が望める。

台木：「NEWスーパー雲竜」

低温伸長性、耐暑、耐乾性に優れている。初期より生育旺盛で後半まで強い草勢を保つ。

2 育 苗

(1) 育苗ハウス

育成ハウスのサイドは寒冷紗を張ってアブラムシを回避する。

本圃10aあたり、80m²程度用意する。

(2) 播種

播種期：8月上旬

播種量：2,300粒 / 10a

播 種：有機物が十分入った膨軟な床土を準備し、育苗箱に播種する。

播種後は灌水を行い、新聞紙を湿らせて播種箱の上に敷く。70%以上の発芽となったら新聞紙は取り除く。発芽後は徒長しないように管理する。

特に接ぎ木を行う場合は、胚軸を太く、固く作る必要がある。

(3) 接ぎ木及び鉢上げ

接ぎ木後、直径10.5cmのポリ鉢に鉢上げ

する。

(4) 育苗管理

しまった苗を作るため鉢ずらしは込み合う前に早めに行う。

灌水は基本的に午前中に行い、夕方までに鉢の表面が乾くようにする。

日中の気温は30℃以下で管理し、しまった苗を作るために光を十分当てる。

3 本圃準備

圃場は灌水がいき、排水良好なところを選ぶ。また、作期が台風発生期と重なるため風の対策を十分考慮する。

圃場には良質の有機物を投入し、深耕して土壌改良と保水性を高める。また、根群の発達と排水を良くするため高畦とする。

施肥は基準量を全層施肥する。

マルチは90cm幅の植え付け部分のみとする。

(1) 施肥量

	N	P	K	
基肥	20	30	20	

(2) 栽培様式

畦幅 210cm 株間50cm 2条植え
1,900本/10a

4 栽培管理

(1) 定植

本葉3枚時の苗を植え付ける。

定植作業は夕方に手早く行う。

定植前に鉢に十分灌水しておき、植穴にも灌水しておく。

植え付けは浅植とする。

定植後は本葉10枚まで寒冷紗のトンネル掛けを行っておく。

(2) 誘引

2m毎にパイプを立て、本葉9枚になったら蔓の誘引をする。

(3) 整枝

4～5節(畦面から30cm)までの側枝と

雌花はすべて除去する。

主枝の摘芯は草丈が1.6m～1.8m時(18～20節)に行う。

小蔓の摘心

5～10節 1節

11～15節 2節

16～20節 1節

但し常に2～3本のわき芽は放任する。

(4) 摘葉

側枝の葉が大きく込み合うようになったら、主枝の老化葉、病葉等を摘葉し、採光を図る。摘葉は1回に当たり2枚程度とする。

1月以降は放任とする。

(5) 灌水

活着までは手灌水を行い、活着を促す。活着後は灌水を控え、雌花開花期頃から少量多回数の灌水を始める。

(6) 追肥

追肥は雌花が開花し果実の肥大が始まった頃から1回当たりN1kg程度を3日程度の間隔で行う。

(7) 病虫害防除

予防散布を徹底する。

(8) 収穫

若採り収穫を励行し、樹勢の維持に努める。